

<今日の説教のポイント エフェソの信徒への手紙6章21～24節>

①自分の話をしてもいいときは？ — 自分の愚かさ、弱さを語る時！

自分のことは語らない。クリスチャンが聖書から教えられることの一つです。特にパウロの「誇る者は主を誇れ」という言葉から来ています（Iコリ1:31、IIコリ10:17）。しかし、今日の箇所では自分の様子を知らせようとしています。矛盾しているでしょうか？ そうではありません。パウロは、「誇る者は自分の弱さを誇れ」とも語っています（IIコリント12章）。自分の自慢をするのではなく、他の人に聖書の福音を伝えるために、愚かだった自分、弱かった自分が主によって赦され、励まされた、それはパウロも語っているのです！（ガラテヤ1章11節以下）

②この手紙で大事な3つの言葉、「平和」「愛」「恵み」

今日の箇所特別な意味をもって使われている3つの言葉ですが、その意味はエフェソ書全体を振り返るときによく分かります。

まず「恵み」は、神様が御子によって私たちの罪を赦して下さったことを考えているところで圧倒的に多く用いられています（1:6-8、2:3-8、3:7-8）。ですから、「恵みが、変わらぬ愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛する、すべての人と共にあるように」（24）と祈られているのです。次に「平和」は、特に2章11節以下（14, 15, 17節）で独特な内容で用いられていました。「キリストは、双方をご自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し」（15）。すなわち、私たちに平和（平安）が訪れるのは、キリストが私たちの罪を赦すために十字架にかかって下さったことを思い巡らす時なのです。それは敵対していた双方の間には平和を、乱れていた自分の心の中には平安を起こすのです。

そして「愛」は、多数使われています（25回）。内容で分けると、1)神様の私たちへの愛(1:4, 2:4)、 2)それに倣って行う私たちの愛(5:1-2)、 3)そのためにキリストの愛を深く知ると説かれる愛(5:1-2)、 4)教会の姿としての愛(4:2, 15-16)、となります。

「平和と、信仰を伴う愛が、父である神と主イエス・キリストから、兄弟たちにあるように」（23）。エフェソの信徒への手紙は、教会のことを「神の家族」（2:19）と表現しています。キリストによる神様の恵みを思う信仰に立ち、愛と平和に満ちた教会の形成を皆で目指しましょう！